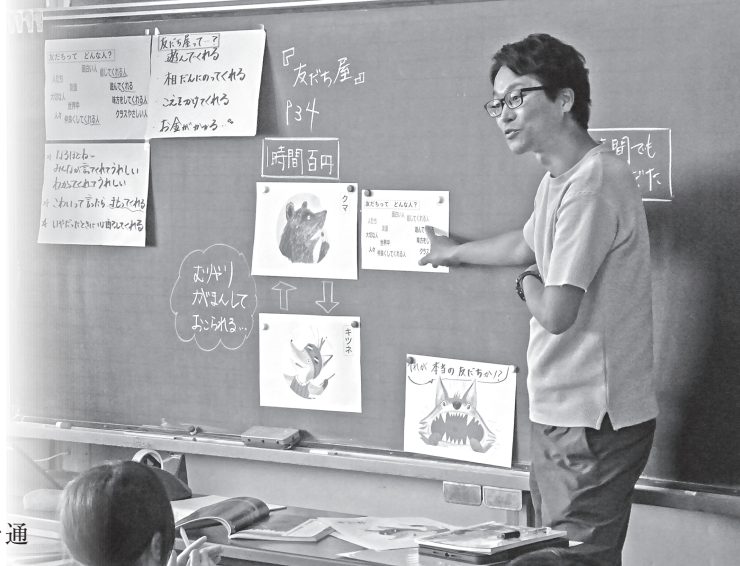


11/19

Tue

個人型 本間大貴（豊野西小学校）

共同研究者 高柳充利  
（信州大学 准教授）

## 対話が生まれる道徳の授業づくり

探究と思考によって進む「対話」を糸口に、全教育活動を通じて行う道徳教育の要となる道徳科の授業改善を図ることにより「子どもと共に学ぶ」ことを追究していきたいと考え、研究テーマを「対話が生まれる道徳の授業づくり」としました。

### 【こだわりの自分、どうしても自分】

高柳先生とお話をさせていただく中で「対話が生まれた瞬間」を思い返してみました。そのとき真っ先に頭に浮かんだのは、学級の中核活動「アウトドアチャレンジ」で火おこしをしたときのNさんの姿でした。

まいごり式の火おこしにチャレンジして3度目。火をつけられるようになった人が増えてきて、つけた火で焼きマシュマロをしようということになりました。多くの子がマシュマロに心を奪われている中、一心不乱に火おこし器を動かすNさん。ある子が「Nちゃんね、自分でつけた火でマシュマロを焼きたいんだって」と教えてくれました。「Nさん、がんばろうね!」という私の声がけに無言でうなづくNさん。するとNさんの周りに何人かの友達が集まってきました。「煙は出るんだけど…」というNさんの言葉に「2人でやるといいよ」「力を抜かないようにするといいね」とアドバイスをする子。その後、Nさんは見事に自分でつけた火でマシュマロを食べることができました。

Nさんの「自分でつけた火で…」というこだわりの思いに、そっと寄り添って声をかける子どもたち。そんな周りのサポートに、できない自分の思いを吐露し、どうすればできるかを考え始めたNさん。言葉は少ないけれど、確実に対話していた子どもたちの姿がありました。

### 【当日の授業に向けて】

高柳先生との話から見えてきたのは「相手のこだわりに思いを巡らすことから対話が生まれてくるのではないか」ということです。授業の中で「こだわりの自分」を出せる。そして、興味をもって友達の話を聞ける。さらに「どうしてそう思ったの?」「私もこんなことがあるよ」と自分事として対話しようとする。子どもと共に学ぶ中で、こんな姿に出会えることを楽しみに授業づくりをしています。



共同研究者 高柳先生から

どうしても自分でおこした火でマシュマロを焼いて食べたいと試行錯誤するNさんと、周囲の子どもたちとの間に、対話が生まれるのを見て取る本間先生。子どものやむにやまれぬ思いで深まってゆく探究が予感されます。



### ～日程～

- ① 受付 12:45～13:00
- ② 開会式 13:05～13:25
- ③ 授業参観 13:35～14:20
- ④ リフレクション  
14:30～15:20
- ⑤ ワークショップ  
15:30～16:20  
(授業者の実践からの問題提起)
- ⑥ 閉会式 16:20～16:30